指定校番号	28067	学級活動		児童会・生徒会活動	○	学校行事		別紙様式

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市小学校	校　長	坂田　邦彦	生徒指導主事	丸山　信宏

取 組 事 例 名　『なんでも文化発表会』

取　組　の　ね　ら　い『キーワード　自己存在感と自己有用感』

○児童が日頃の学習や自主的な文化的活動の成果を発表することを通して，自己存在感，自己有用感を高めることができるようにする。

○児童が他の友達や異学年の児童の発表を見ることを通して，自己を伸ばそうとする意欲をもてるようにする。

○後期自伸会執行部の児童が自主的かつ主体的に運営することによって，自己存在感を高めることができるようにする。

取 組 の 具 体 的 内 容『キーワード　主体性』

○後期自伸会執行部の児童が中心となり，計画の立案，練習・リハーサル時の見守り，発表会当日の運営等を行う。

計画の立案

・執行部会で実施計画を立てて，自伸会朝会等を使って全校児童に参加の呼びかけを行う。

練習・リハーサル時の見守り

・練習計画を立てて，参加する個人・グループの練習に立ち会い，必要に応じてアドバイスを送る。

発表会当日の運営

・会場準備や司会等，発表会当日の運営を行うとともに，終了後は５・６年生とともに会場の片づけを行う。

取組の課題・創意工夫『キーワード　時間と場の確保』

○参加の呼びかけをしたところ，今年度は２６の個人・グループの参加申し込みがあった。音楽室や視聴覚室等での練習，体育館でのリハーサルができるように練習計画を立てたが，十分な練習時間を確保することが難しい。

○学校行事の見直し等により，「なんでも文化発表会」は平成２４年度から昼休憩に行っている。全学級にプログラムを配布したり，告知放送で観覧を呼びかけたりしているが，全員が観覧できるようになっていない。

取組の成果（効果）『キーワード　自己存在感と自己有用感』

○ピアノ，合奏・合唱，ダンス，劇など５日間に渡って実施したが，連日２００人前後の児童・保護者が観覧し，たいへん盛り上がった。

○児童アンケートでは，「日頃からがんばっていることを多くの人に見てもらえた」「見てくれた人が楽しんでくれた」「自分たちの力で創り上げるのはたいへんだったが，クラスが団結し，いい思い出となった」等，約８９％の児童が参加してよかったと回答している。

○保護者アンケートでは,「自分が得意なことを発表できるよい機会だと思う」「がんばっている姿が伝わってきた」「一人一人がのびのびと発表していた」「児童の聞く態度もよかった」等，約８９％の保護者が「たいへんよかった」と回答している。

今　後　の　展　開『キーワード　広がり』

○「なんでも文化発表会」は１０年以上も前から行われており，児童・保護者の間にも十分浸透している取組である。児童アンケートでは,「来年度も発表会に参加したい」と回答した児童は約８５％に上り，継続して参加しようとする意欲をもっている。

○観覧した児童に「来年度，発表会に参加したいか」と聞いたところ，参加したいと回答した児童が約３５％にとどまっている。自己表現できる場の一つとして，参加に向けた働きかけを行っていく。

○「発表時間が短かった」「もう少し時間を延ばしてほしい」という意見が，児童・保護者アンケートから出された。発表時間を延ばすと開催日数を増やさなければならないため，来年度以降の方向性を議論する必要がある。

他校へのアドバイス『キーワード　場の保障』

○「なんでも文化発表会」は，自分と同じ学年の友達の発表だけでなく，異なる学年の発表を見ることができる場である。発表を見ることで,「すごいな」「がんばっているな」と相手を認めることにつながる。また，発表する児童は，自分のがんばりを見てもらうことで「やってよかった」「これからもがんばりたい」という意欲が高まる。

○後期自伸会役員が中心となって,「なんでも文化発表会」の運営を推進する過程で協力的な人間関係を学ぶことができる。